

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Incidence of Hospitalizations Involving Alcohol Withdrawal Syndrome in a Primary Care Population プライマリ・ケア集団におけるアルコール離脱症候群 (AWS) を伴う入院の発生率		
執筆者		
Steel TL, Matson TE, Hallgren KA, Oliver M, Jack HE, Berger D, Bradley KA.		
掲載誌		
JAMA Netw Open. 2024 Oct 1;7(10):e2438128. doi: 10.1001.		
キーワード	PMID	
アルコール離脱症候群、相対的発生率、入院中、プライマリ・ケア	39378033	
要 旨		
<p>目的: 成人のプライマリ・ケアを受診した集団において、アルコール離脱症候群 (AWS) を伴う入院の発生率およびその相対的発生率を、患者特性ごとに評価する。</p> <p>方法: 2018年7月1日～2022年6月30日の Kaiser Permanente Washington (KPWA) の電子カルテと保険請求データを用いた。対象者はこの期間中またはその前年に1回以上プライマリ・ケアを受診した成人とした。プライマリ・ケアには、AUDIT-C (アルコール使用障害同定テスト) が含まれていた。AWS を伴う入院は、入院中に記録された診断コードにより定義された (発生率の分子)。KPWA に加入していた期間をもとに算出した、個人登録年を分母とした。AWS を伴う入院の発生率を、全ての原因による入院の発生率で割って、AWS を伴う入院の相対的発生率として求めた。また、他の慢性疾患 (慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、心不全等) についても同様に相対的発生率を求めた。</p> <p>結果: プライマリ・ケアを受診した成人 544,825 人 (平均年齢 47.0 歳、女性 56.9%) が対象となった。AWS を伴う入院の発生率は、全体で人口 10 万人あたり 169 件 (95%信頼区間 CI : 159-179) だったが、他のアルコール関連疾患を有する患者では 15,347 件 (95%CI : 13,502-17,331) と著しく高かった。AWS を伴う入院の相対的発生率は全体で 2.3%だったが、年齢、性別、AUDIT-C スコアによって発生率にばらつきが見られた。例えば 30～49 歳の男性では 9～11%、AUDIT-C スコア 7～12 (高リスク群) では 23～44%に及んだ。60 歳未満の成人では、AWS を伴う入院の相対的発生率は、他の一般的な慢性疾患による入院と同等かそれを上回っていた。</p> <p>結論: 統合型医療システムを用いた、プライマリ・ケア受診者を対象とした大規模な本コホート研究では、AWS を伴う入院は比較的良好であり、とくに男性、若年層、高リスクな飲酒習慣のある者で多く見られた。入院中の AWS の負担は、医療的により注目を集める他の慢性疾患の合併症と同等かそれ以上であり、過小評価されるべきではない。</p>		